

友 愛



【学校教育目標】・かしこく・やさしく・たくましく
「良き伝統の中に流れる「友愛」の絆を大切にしたい
心広く大らかな児童の育成」

◎12月の生活目標
・よいことばづかいをしよう

優しいまなざしと温かな見届けが、子どものエネルギー！

校長 三上 正明

芸術の秋、コロナが下火になっていたこともあってか、あちこちで演奏会などが開かれていました。本校においても11月4日(児童のみ)・5日(保護者公開)の2日間にわたり校内音楽会を開催しました。子どもたちは音楽会に向けて、歌声や楽器の音を合わせながら、みんなで一つの曲をつくりあげようと本当によく頑張ってきました。自分から進んで休み時間や昼休みに音楽室で練習していた人もいました。家に帰ってからも練習していた人もいたようです。本番での演奏は1年生から6年生、5・6・7組も、どの合唱・合奏も、みんな一生懸命で、一つにまとまっていて、素晴らしいものでした。



保護者に公開した2日目の演奏は一段と素晴らしいものでした。子どもたちの歌声には張りを感じられました。楽器を演奏する音につやがあるように聴こえました。その姿からは、「自分が頑張っている姿、努力してできるようになった成果を見てもらいたい。」という思いが伝わってきました。「見て！見て！こんなに頑張ってるよ。こんなにできるようになったよ。」と言っているようでした。そして、演奏後は、ほっとした安堵感とともに自分の頑張っている姿を見てもらえたという喜びに満ちた表情をしていました。また、一生懸命に演奏しているわが子の姿をとっても愛おしそうに見つめる優しいまなざし、成長したわが子の姿を逃さず記録したいと懸命にカメラを構える保護者の方々の姿からは「頑張れ！と応援する気持ち、わが子がうまくできますように！と祈るような気持ち」が伝わってきました。そして、演奏後の子どもたちには、「がんばったね。ずいぶん成長したね。」と語りかけるような温かな拍手が送られていました。

よく子どもたちは、「頑張ってるから見て！」「できるようになったから見て！」と言います。子どもに限らず人は皆、頑張っている姿・努力した成果を見て欲しい、認めて欲しいと思っているのだと思います。そして、頑張っている姿を温かく見届けられ、認められることで、また頑張れるのだと思います。子どもを見つめる大人の優しいまなざしと温かい見届けは、子どもが頑張るための大切なエネルギーです。これからも行事に限らず様々な場面で、学校・家庭・地域のみみんなで子どもたちに寄り添い、子どもたちの頑張っている姿を優しく見つめ、温かく見届け、認めて、子どもたちの自尊心(自分を大切に思う気持ち)や自己肯定感(自分に対する自信)を育てていけたらと思います。

川越市は今年で市制施行100周年です！

大正11年12月1日、川越町が仙波村と合併し、人口3万1000人をもって県内初の市制が施行されました。今日は、川越市が市制を施行してから100周年の記念すべき日です。今日の1時間目の授業では、全校児童に教育長からメッセージが送られました。その一部を以下に紹介します。

川越は、江戸時代、城下町として栄えました。昔は今のよう、車や電車があるわけではありませんので、舟を使って物資を運んでいました。皆さんの家や学校の近くに、新河岸川がある人はいませんか。新河岸川は東京、当時の江戸とつながっているのです。昔は、新河岸川に舟を走らせて江戸へ物資を運んでいました。舟を使ってたくさんの物を運んだり、運ばれたりする中で、川越は栄えていきました。

このようにして栄えた川越は、今から100年前の1922年12月1日、川越町と、仙波村が一緒になり、川越市となりました。川越村は現在の蔵造の町並みなどが残る地域、〈市役所前の市制施行祝賀風景〉仙波村は川越駅などがある地域です。埼玉県には、隣のさいたま市やふじみ野市、狭山市や鶴ヶ島市など、たくさんの市がありますが、県内で初めて市になったのは、皆さんが暮らす、ここ川越市なのです。

その後、1939年、昭和14年に、今の泉小学校区辺りにあたる田面沢村が一緒になり、1955年、昭和30年には、霞ヶ関村、福原村、高階村、南古谷村、古谷村、芳野村、山田村、名細村、大東村など、川越市の周辺にあった村が川越市と合併、一緒になることで、皆さんが知っている、現在の川越市となりました。皆さんが通っている学校のいくつかには、その地域の名前が残っているのではないのでしょうか。

長い歴史をもつ川越市や皆さんの住む地域には、まだまだたくさんの魅力ある歴史や文化、自然などが残されているはずですが、皆さんには、これから先、先生方や友達と一緒に、川越市や地域のことをより深く学んでほしいと思っています。川越市や地域のことを調べたり、家族や地域の方に聞いたりすることで、新たな発見がきっとあることでしょう。そして、そういった発見により、川越市をもっと好きになってほしいと願っています。また、これからの川越市に、自分がどのように貢献していくかを考えることによって、将来、川越市を離れて活躍する人も、川越市でずっと生活していく人にとっても、いつまでも川越市を心の居場所にして、幸せな人生を送ってほしいと願っています。

